

★晩産化や共働き夫婦の増加などによるライフスタイルの変化とともに、
出産や子育てが多様化しつつあります。
妊娠、出産、子育てに際して、パパができることを考えてみましょう。

さんきゅうパパ プロジェクト

国が進める「さんきゅうパパプロジェクト」では、ママの産後2か月
以内のパパの休暇取得を促進していくことを目指しています。

佐渡市では、平成27年5月に「子育て世代へのアンケート調
査」を行った結果、理想的な子どもの数2.9人に対して、実際の子
どもの数（予定を含む）は、2.6人となっています。

「子育てと仕事の両立が難しいから」「育児の心理的、肉体的
負担が大きいから」「配偶者の理解や育児・家事への協力が足り
ないから」「配偶者が望まないから」等が主な理由としてあげら
れ、パートナーの協力の有無等が出生数に影響していることがう
かがえます。

新しい命の誕生に、家族全員が協力できる体制を築いていき
ましょう！

パパが産休 家族にサンキョウ



さんきゅうパパ プロジェクト



どうしていま、「さんきゅうパパ」なの？

- ・夫婦の理想の子ども数と実際の子ども数の差が広がっています。
- ・6歳未満の子どもを持つ夫の子育てや家事に費やす時間をみると、1日当たり67分となっており、先進国中最低の水準にとどまっています。
- ・7歳未満の子どもを持つ既婚女性に「安心して子どもを持つために必要な支援・環境」について聞いてみると、パートナーの協力・理解が得られることを挙げる人が最も多くなっています。
- ・夫が休日に行う家事や育児の時間と、第2子以降の出生割合には大きな関係性が見られます。夫が家事・育児を長時間している夫婦の方が、第2子以降の誕生する割合が高いことがわかっています。

こんな日に、休暇を取ってはいかがでしょうか

◎子どもが生まれる日 ◎子どもを自宅に迎える日 ◎出生届を出す日

男性には、女性のような産後休業の制度はありませんが、育児休業を取得できるほか、企業によっては「配偶者出産休暇」等の特別休暇を取得できる場合もあります。

早めに計画を立て、事前に上司や人事担当に相談しておくことが重要です。

長い休みは取れないという方も、まずは3日、休暇を取ることを目標にしてみてください。

内閣府では、「少子化社会対策大綱」（平成27年3月閣議決定）で掲げた目標である「5年後に男性の配偶者の出産直後の休暇取得率80%^(*)」に向けて、男性の休暇取得を推進しています。

※配偶者の出産後2か月以内に取り、半日または1日以上（年次有給休暇、配偶者出産時等に係る特別休暇、育児休業等）

出典：内閣府「さんきゅうパパ準備BOOK」

ダウンロード先：内閣府ホームページ（<http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/sankyupapa.html>）

お問い合わせ 市役所総合政策課 人口減少対策室 ☎63-3802